

古代イスラエルの祭り

月	日付	祭り	祝う場所	聖会 ※1	特徴
ニサン 第1の月 春	14 満月	過ぎ越し	成人男子は エルサレム ※2	なし	無酵母パンの祭りと一緒にして、「過ぎ越し」と呼ばれることが多い。 日没後、羊または山羊の子（1歳の雄、傷のないもの）を屠って皮をはぎ、完全に焼く必要があった。 ※3
	15-21	無酵母パンの祭り		初日、 7日目	エジプトでの苦悩からの救出をイスラエルに思い起こさせるもの。 祭りの期間中、家にパン種の入ったパンがあってはならなかった。
	16 祭りの 2日目	初穂の捧げ物		なし	初穂の捧げ物では、大祭司がその年に最初に収穫される大麦の束を神の前で揺り動かし、それによってその年の収穫全体が神にささげられ、認められたことを表した。 （レビ記 23:10-11, 14；ヨシュア記 5:10-11）
シワン 第3月 初夏	6	七週の祭り （ペンテコステ）	成人男子は エルサレム ※2	あり	ペンテコステ→ギリシア語で「五十番目の日」過ぎ越しの翌日から数えて50日目。 神の聖なる国民として取り分けられている特権について思いめぐらした。
ティシュリ 第7の月 晩夏～秋	1 新月	ラッパの吹奏の日	エルサレム神殿 イスラエル各地	あり	ラッパを吹いて神の前に招集されることを表し、年の節目と神の王権を記念した。
	10	贖罪の日	エルサレム神殿 イスラエル各地	あり	モーセの律法において唯一、全民に断食が命じられた日である。 この日だけは、大祭司が年に一度、神殿の至聖所に入ることを許され、イスラエルの民全体の罪のために贖罪の儀式を行った。
	15-22	仮庵の祭り （幕屋の祭り）	成人男子は エルサレム ※2	初日、 8日目	この期間、自分の家の外か屋上（巡礼者はエルサレムに集まり、町の屋上や空き地）に木の枝や葉でこしらえた仮小屋に住んだ。 この期間は大祭のため、祭司職 24 組すべてが神殿奉仕に関わった。
キスレウ 第9の月 冬	25～ 8日間	献納の祭り	各自の都市	なし	祭りの期間、神殿の中庭には大きな明かりが灯され、神殿の再献納を記念した。 また、人々は居の入口近くに装飾用の灯を置き、街路に面した戸口を照らして、町全体を光で満たした。
アダル 第12の月 早春	14-15	プリム	各自の都市	なし	ペルシア時代に、ユダヤ人がハマンの企てた大量殺害から救われたことを記念した。

※1 「聖会」または「聖なる大会」

聖会は、祭りの日に行われる公式な集会日のこと。宗教的集会・朗読・祈りがなされる。神にささげるために時間を取り分ける日とされている。日常の労働は禁止されているが、安息日ほど厳格ではなく、祭りのための準備などはできる。

※2 三大祭（過ぎ越し、七週の祭り、仮庵の祭り）において、成人男子は主の前に出る義務があり、エルサレムへ巡礼した。女性と子供には参加義務はなく、同行は任意であった。

※3 出エジプト記などでは、家ごとに屠る様子が記録されているが、神殿時代になってからの過ぎ越しの犠牲は、各家庭だけではなくエルサレム神殿で屠られるようになったため、多くの場合、家族単位で巡礼が行われ、女性や子供も可能な範囲で同行したと考えられる。